

広報
函館発

共働通信

創刊号

2000年
1月1日

きょうどうつうしん



函館共働宿泊所救護部

目次

広報誌創刊にあたって・医務室便り.....	2 P
寮母日記・調理室便り・指導部便り.....	3 P
ほのぼの写真館（思い出がいっぱい！）.....	4・5 P
歴史回廊＜第1回＞明治30年～昭和27年.....	6 P
クラブめぐり（第一回）・それ行け！共働調査隊.....	7 P
年間行事予定表・地域交流・編集後記.....	8 P

「広報誌」創刊によせて

社会福祉法人函館共働宿泊所
理事長 越前政子



函館共働宿泊所は明治において当時の篤志家、故・仲山与七氏により創立されて以来、その歴史は永きに亘ります。

第七代目理事長就任にあたり施設のルーツを調べておりましたが、広報誌発刊に伴いその歴史が紐解かれることは大変な喜びでございます。また、広報誌上において施設の様々な遷り変りを、節目節目にお知らせしたいと思っております。

最近、「開かれた福祉」が論ぜられております。広く地域社会の関心と理解を得て支えられ、施設や施設職員が地域社会に役立つ機会を持ちながら運営される施設こそ、真に「開かれた施設」であると考えております。地域の皆様方との触れ合いの橋渡しとして、広報誌がお役に立つことが出来ますならば、この上ない幸甚と思っております。施設の歴史と共に広報誌が、末永く地域の皆様との交流の場となりますのを願っております。

函館共働宿泊所救護部
部長 越前典洋



当施設の所在地は、函館市の郊外、元々は「すずらん畑」であった現在地に移築・移転致しましてから、ほぼ三十年になろうしております。当時から見ますと、周辺地域は年々と開発が進んではおりますが、今日でもなお自然に恵まれ、澄み切った空気の中で、ご入所されておられる皆様は、のんびりとした日々を過ごされております。

従来より、当施設の社会化の推進におきましては、地域の皆様のご理解と日頃の心暖まるご交流によるところが大きかったです。お蔭様をもちましてこの度、広報誌「共働（きょうどう）通信」を創刊させて頂くこととなりました。

今後は本誌を通じ、従前よりご交流を賜っております皆様はもとより、これまで以上に多方面の皆様に対しまして私共、函館共働宿泊所救護部につきまして、ご理解を賜ることが出来ましたら幸甚に存じます。

医務室便り

救護施設に勤めて



看護婦 田畑和子

亀尾町の外れ、四方山に囲まれた小高い丘に、赤い屋根の施設があります。四季折々の景色を楽しみながら勤務して二年になります。当施設には105名の人達が、31名の職員に暖かく見守られながら生活しております。社会の情勢と同様に、施設内の高齢化が進み食事介護、用便の介助者が徐々に増加しております。それにともない生活の場が畳からベット上の生活となり、少ないベットの部屋の移動に職員は苦慮しているのが実情です。また、通院者も多く105名中100名が受診しております。施設内の医療に携わる人は、嘱託医1名、精神科医4名、歯科医1名（週1回）が臥床者の往診治療、看護婦1名です。私の主な仕事は入所者、職員の健康管理、診察の介助、毎日の要観察者のチェック、医師より指示された処置等です。

急激な容態の変化などには主体的に対応しなければならない時もありました。その際には責任の重さに、自問自答することも度々ありました。その都度職員の皆さんに励まされ、今日まで続けられました。

これからは、入所者の一人一人に配慮し、ニーズに合った援助を職種間で話し合い問題点を解決し毎日楽しく過ごしてもらえよう努力していきたいと考えております。

「言葉使いの難しさ」



主任寮母 木村フミ子

私達が日常何気なく使っている言葉一つで、人の心を和ませ、励まし勇気付けたりして信頼関係が生まれるものだと思います。しかしながら、不用意な一言が相手を傷つけてしまうことにもなりかねません。

私が寮母になって初めて担当した頃の事です。高齡のためお漏らしをするようになり、臭いのついた下着を替えずにいるので「臭いがするから下着を替えましょうね」と言ったところ、「何も臭くない」と機嫌を損ねた事がありました。

そこで少し間をおいてから、「汗をかいたの？、それじゃ下着替えましょうね！」と言うと、「うん、汗かいたんだ」と、照れくさそうに素直に着替えに応じてくれました。私は優しく話しかけたつもりでしたが、相手の自尊心を傷つける結果になった苦い思い出があります。

救護施設は入所者の出身地も年齢も障害も多種多様なので、マニュアルにある言葉使いは理想的だとは思いますが、反面他人行儀な感じがするのも否めないと思います。ケースバイケースで思いやりのある言葉を使い分けるテクニックが、大切な事だと思います。

調理室便り



管理栄養士 長井悦子

「広報誌名」募集に応募して

この度の「広報誌」名募集に際し、初孫の誕生にも似た想いで「混采（こんさい）」と投票しました。百名を数える人々の生活の場は、育ちの環境も、生活の道のりも異なります。それぞれが豊かな経験者で彩られております。かけがえの無い個性をお互いに大事にし、認め合い、信頼の内に優しく、助け合える生活の場であってほしいと思うのです。秋から冬にかけての今の季節が、美味しい食材が豊富です。味わい深い温かい鍋物も、その、旬の色々な素材をたっぷり使った健康料理から生まれます。

「美味しいよ」の笑顔に支えられて、豊かな生活の日々でありたいと願っております。

指導部便り

「広報誌」発刊創刊号によせて



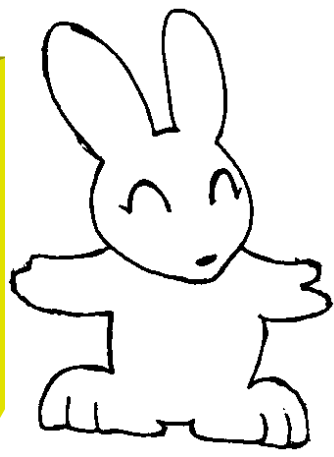
主任指導員 相馬良二

「開かれた社会福祉施設」、「利用者の尊厳・権利」、「介護保険」、「措置から契約」、「情報公開」など、社会福祉構造改革の流れの中で、2000年と云う記念の年に21世紀に向かって第1号広報誌「共働通信」を発刊する事は、当施設においても新しい時代に即した施設作りの第一歩と思っております。

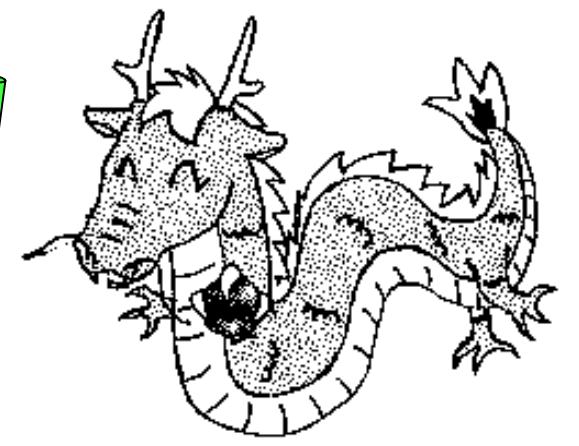
募集

皆様からの、ご意見、ご希望、持ち込みの記事を、お待ちしております。

広報誌編集委員会



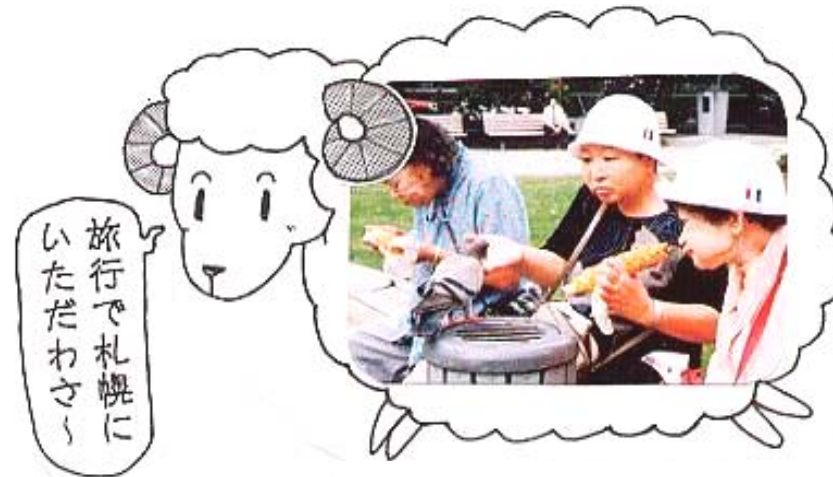
ほのまの写真館



仮装
です
ねー



何歌
ってる？



旅行
で札幌
に
いた
だわ
さー

長
寿
の
お
祝
い
で
ゴ
サ
ー
ル



旅
行
で
小
樽
に
行
っ
た
に
よ
ろ



鹿
部
ロ
イ
ヤ
ル
ホ
テ
ル



お
誕
生
日
め
で
た
い
ヒ
ヒ
ー
ン



お
い
ら
も
出
た
い
ワ
ー
ン



ま
あ
け
っ
こ
う



が
ん
ば
れ
が
ん
ば
れ
プ
ヒ
ヒ
ー



歴史回廊

函館共働宿泊所のあゆみ 第一回

当施設の成り立ちは、明治30年（1月から5月まで）に函館滋恵院創設者の一人、仲山与七氏個人により設置されたことが施設のはじまりとなっております。当時の名称は「仲山救護所」と云い、一時中断の後、同43年「函館無料宿泊所」と改称し再開されました。

大正6年には財団法人設立・認可され、名称も「財団法人北聖院」と改めることになりました。

同10年には職業紹介法発布を受けて職業紹介所を付設、翌13年に創設者・仲山与七氏の死去にともない、滝川周作氏が第2代目理事長に就任、その翌年には舎屋も新築されました。

大正15年第3代目理事長・勝田弥吉氏、昭和4年第4代目理事長・梅津半六氏と二度の理事長交代を経ながら運営されていたものの、翌年にはその舎屋が全焼するという惨事に見舞われました。昭和6年、第5代目理事長・林儀作氏就任直後に、現在の名称である「函館共働宿泊所」となり、同時に現在で云う救護部と更生部が設立され、北海道における初めての収容保護事業施設の誕生となりました。

同年新舎屋が完成し、再出発をはかった矢先の昭和9年、未曾有の災害「函館大火」により、あろうことか又も舎屋を失ったのであります。

巷の混乱も収まらぬ翌10年、理事長・林儀作氏の死去に伴い、越前金一郎氏が第6代目理事長に就任、越前理事長の私財により舎屋が新築され、市内堀川町にて三度復興の運びとなりました。

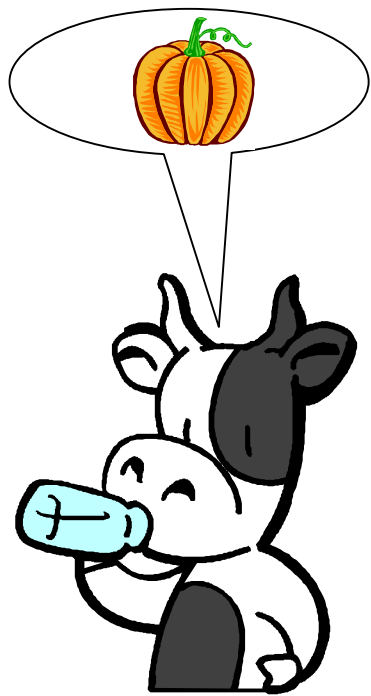
さらに、生活保護法による更生施設として同22年に許可され、同27年には社会福祉事業法による「社会福祉法人函館共働宿泊所」として組織変更並びに認可されました。それにともない、更生施設の入所者を分類収容し保護の万全を期するために施設の一部を仕様変更し同堀川町に救護施設を設置致しました。

そして、「救護施設函館共働宿泊所救護部」が事業開始の第一歩を記すこととなりました。 - 次号へ続く - (担当 下山)

* 参考文献 / 「函館無料宿泊所報告」 仲山与七 著（大正五年刊）
「北海道社会福祉事業史」 発行・社会福祉法人北海道社会福祉協議会



* 掲載写真 / 市立函館図書館所蔵・昭和11年11月22日発行函館日日新聞紙上



園芸クラブの巻

くらぶめぐり

第一回

数あるクラブの中から、
 今回、園芸クラブを紹介
 します。
 園芸クラブは、毎週一回
 火曜日に講師の方におま
 して、戴き活動しております。
 す。屋外では花壇、花
 除草、晩秋の冬、花壇の
 た雨、時々冬の間、屋
 入で鉢植えや観葉植物の
 手入れもします。
 写真、または昨年ポチャ
 穫たしたの早調りさ
 し、たの早調りさ
 入所者皆さんに振舞
 れます。

土作り種蒔き、育て
 収穫し、食べると三
 倍楽しみの充実した
 クラブです。
 (担当 佐藤)

共働調査隊

それ行け!

手厚い介護にママシも入所希望?!

それは、例年になく暑い9月某日、正面玄関にこそとママシが出没。面接をしてみるとママシ君、どうやら常日頃から施設を観察しており、入所している皆さんの楽しい話し声、寮母さん達のやけに明るい笑顔や心のこもった手厚い介護に惹かれ、以前から入所を希望していたとのことであった。

ママシ君の熱意に打たれた、心優しき施設長と指導員...夜を徹して検討したのだが、あいにくどの部屋も満床。しかしながら特別室の増築となると経費も足が出る...止む無く入所を断念して頂いた。

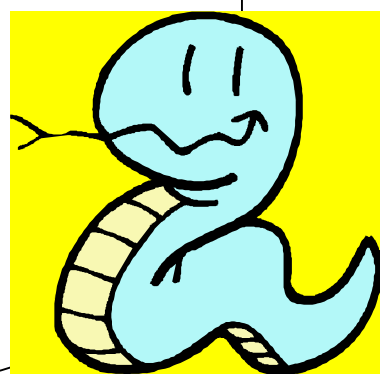
ガックリと肩を落とし、涙を流しながらトボトボ帰るママシ君...とは云うものの想いは断ち切れず...ふと食堂を覗くと昼食には美味しそうな茶碗蒸し。「茶碗蒸美味しいね」が「茶碗ママシ美味しいね」に聞き違えたからさあ大変、入所希望の事などすっかり忘れたあわてん坊のママシ君。身の危険を感じたのか、一目散に逃げ帰ったとさ...

さ~て、次の訪問者はどなたかな...?



このお話しは、98%のフィクションと2%の真実で構成されております。お取扱にはくれぐれもご注意を...!

(担当 田中)



年間ぎょうじ予定

いままでのぎょうじ

- 5月
お花見会バス旅行
- 6月
開所記念祝賀会
臥床者市内観光
フットベースボール大会
- 7月
七夕祭り花火大会
盂蘭盆法要
お盆参り
デパート・ショッピング
- 8月
盆踊り仮装大会
一泊旅行会
- 9月
お彼岸参り
二泊旅行会
長寿会（敬老祝賀会）
- 10月
運動会（救護施設合同）
観楓会バス旅行

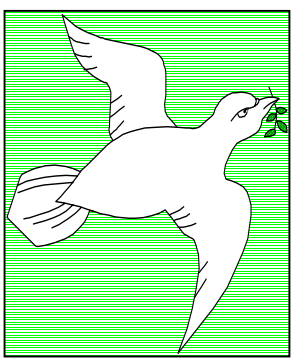
- 11月
誕生祝賀会
- 12月
クリスマス・パーティー
餅つき大会
年越し祝賀会

これからのぎょうじ

- 1月
新春お楽しみゲーム大会
新春お楽しみ演芸大会
書初め大会
- 2月
節分豆まき
デパート・ショッピング
清心書道教室作品発表展
- 3月
ひな祭り
お楽しみ模擬店
旅芝居観劇会

編集後記

おかげさまで記念すべき「共働通信第一号」の発行となりました。編集委員は全員が広報誌作成の未経験者のまさに手探り状態での編集作業は試行錯誤の繰り返しでした。生まれたての本誌はまだまだ拙い広報誌ですが、さらに親しみやすく、読みやすい紙面を目指して行きたいと思えます。どうぞこれからもよろしくお願い致します。なお、本誌タイトルの「共働通信」は職員と利用者の方からのタイトル公募により選定しました。紙面上を借りて感謝申し上げます。ご協力有難うございました。（編集長）



編集委員紹介

編集長	内村 康彦
委員	大坪 早苗
委員	佐藤 香奈
委員	下山 玲美
委員	田中 真澄
委員	年代 和紀

地域交流

（平成11年4月～12月）

- 元町カトリック教会さま
- 湯川カトリック教会さま
- 若柳流舞踊「仲良し会」さま
- ママさんバレーさま
- 函館千歳教会さま
- 函館ちとせ幼稚園さま
- 函館白百合幼稚園さま
- 巴民謡会と上湯川カラオケ会さま
- 函館蒲鉾工業協同組合さま
- 中島町商店街振興組合さま
- 函館友の会さま
- 亀尾中学校さま
- 亀尾小学校さま
- パーマ美容師上田さま、森さま

楽しいひと時を有難うございました
これからもよろしくお願い致します

つうしんらん

発行/函館共働宿泊所救護部

発行責任者/越前典洋

編集/広報誌編集委員会

編集責任者/内村康彦

函館市東畑町158-2
電話(0138)58-4040